

Philomusica Orchestra Kyoto

JEAN SIBELIUS

Symphonic Poem for Orchestra "Tapiola"

PAUL CRESTON

Concertino for Marimba and Orchestra

ANTONÍN DVOŘÁK

Symphony No. 7

京都フィロムジカ管弦楽団
第9回定期演奏会
2001年6月3日（日）
京都府長岡京記念文化会館

京都フィロムジカ管弦楽団顧問 和田 之宏

本日ここに「京都フィロムジカ管弦楽団」定期演奏会を開催するにあたり、ご多用にも拘わらず、多数の方々のご来場をいただきまして誠にありがとうございます。

この定期演奏会も21世紀にわたり、はや第9回目となりました。

今回は、指揮者に井村誠貴氏を、又マリンバ演奏に永野貴子氏をお迎えし、先生方のご指導のもと、ますます努力と研鑽を積み重ねてまいりましたが、本日はその成果を存分に披露してくれるものと期待致しております。皆様にはその努力の結実を演奏の中にお聴きいただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、京都フィロムジカ管弦楽団の為に、物心両面にわたるご支援を賜りました皆様方をはじめ、ご指導下さいました先生方に厚く御礼申し上げますと共に、定期演奏会のますますの発展を祈りまして、ご挨拶とさせていただきます。

京都フィロムジカ管弦楽団団長 長岡 武志

あるオーボエ奏者がプロオケの入団試験を受けました。受験者は二人でひとり合格しました。「なぜ私は合格できなかったのか今後のために理由を教えてください」 落ちた方の奏者が審査員に詰め寄りました。そこで審査員はこう答えたのです。「あなたは技術的には合格した人より上かもしれません。しかしあなたは自分が演奏しているときに他のパートが何を演奏しているのかわかっていません」 この答えにその奏者は納得して帰ったそうです。

フィロムジカ管弦楽団では自分のパートだけではなくお互いの音を聴き合って演奏するよう心がけています。今の自分のこの音が全体の中でどのような役割をしているのか団員は理解しています。この気持ちがお今日ご来場のみなさまに届けばうれしく思います。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

Violin Shop

VIOLIN VIOLA CELLO & BOW 販売・製作・修理・調整

渡辺弦楽器工房

京都市中京区高倉夷川上ル福屋町728-4 〒604 ☎075-211-0116
西宮市大井出町7-23 〒662 ☎0798-70-2006
FAX0798-70-2009

香雲

ミニコンサート2001 IN 大原

三千院や未公開寺院などの会場を使用し、毎週金～日・祝に生演奏を行ないます。

音楽と自然の音
そして香りが織りなすヒーリング世界に
皆様をお招きいたします

*このイベントの売上金の一部は、昨年5月に焼失した寂光院の義援金に充てられます。

お問い合わせ先:
PLANNING OFFICE PRO-SHIP
TEL/FAX:075-811-9120

都ホテル・新都ホテル専属

岐陽館

小林祐史写場

(駐車場有り)

〒604-0991 京都市中京区寺町通丸太町下ル

電話 (075) 231-1471

FAX (075) 231-1471

御袈裟・絡子の
お仕立に

京都・日吉町 吉野隆

TEL 0771(73)0193

京都フィロムジカ管弦楽団 第9回定期演奏会

- PROGRAM -

ジャン・シベリウス/音詩『タピオラ』(1926)

Jean SIBELIUS (1865-1957) Tapiola Tondichtung für großes Orchester

ポール・クレストン/マリンバ小協奏曲 (1940)

Paul CRESTON (1906-85) CONCERTINO for Marimba and Orchestra, Op.21

独奏: 永野 貴子

アントニン・ドヴォルザーク/交響曲第7番ニ短調作品70 (1885)

Antonín DVORÁK (1841-1904) VII. Symphonie d moll, Op. 70

指揮: 井村 誠貴

2001年6月3日(日) 2:00 開演 京都府長岡京記念文化会館

※携帯電話、ポケットベル、アラーム付き腕時計などの電源はお切り下さい。また、客席でのご飲食・喫煙はご遠慮下さい。また、写真撮影、録音、録画はお断り申し上げます。

ロビーコンサート

- 開演までにロビーにて開催します -

カール・スティーグラー「聖フーベルトのミサ曲」より 第1・2・3・6楽章

Hr. 坂口裕志 安田聖 名取良 桑野亜紀子 吉野文彦

フランス・ブランク「ホルン、トランペットとトロンボーンのためのリナタ」より

第2楽章「Andante」

Hr. 坂口裕志 Trp. 遠藤啓輔 Trb. 宮下秀行

芥川也寸志「トリプティーク」より 第3楽章「Presto」

1st Vn. 天澤天二郎 越後美和 2nd Vn. 大八木文人 田村うらら

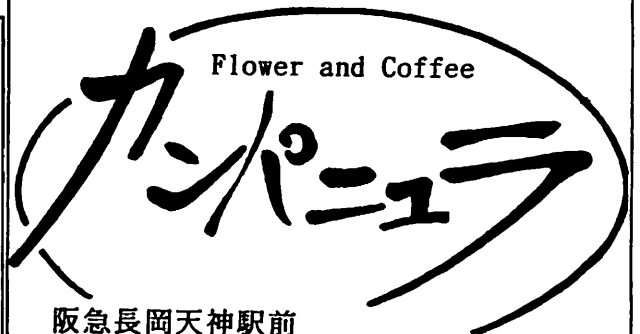
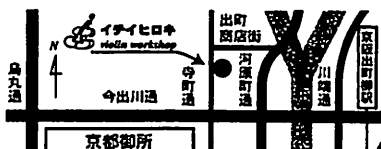
Va. 平石美緒 瀬尾倫代 Vc. 小野田税 海野香織 Cb. 今城和久

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ 輸入・販売・修理・調整・製作

イチイヒロキ
Violin Workshop

ヴァイオリニスト&製作家として、イタリア生活9年の経験が、あなたの演奏をお手伝いします。弦3割引、魂柱、駒、糸巻きなど軽微な調整はその場で無料にてしております。お気軽にお越しください。

- ◆ 出町店 〒602-0825 京都市上京区寺町通今出川上ル表町31
- ◆ Tel. 075-251-0724 携帯電話: 090-3528-0863
- ◆ e-mail: hiroki@violin-workshop.com <http://www.violin-workshop.com>



阪急長岡天神駅前

Tel/Fax 075-951-0362

指揮者紹介

井村 誠貴 (いむら まさき)

大阪音楽大学卒業。在学中よりオペラ指揮者として各地で研鑽を積み、オペラレパートリーはすでに50演目を越えている。

97年にはアメリカ・ホワイトウォーターオペラに招聘され渡米、好評を博す。

管弦楽ではエウフォニカ管弦楽団を中心に音楽鑑賞会を定期的に行う一方、名古屋フィルハーモニー交響楽団などを客演指揮するなど、関西のみならず全国的にも活動を展開。近年は大阪市音楽団、ウィンドカンパニー等の吹奏楽団との関係も深く、吹奏楽でも注目を集めている。

99年には東宝ミュージカル「ラ・カージュ・オ・フォール」の大阪と名古屋でのロングラン公演を成功させるなど、幅広いジャンルにおける今後ますますの活躍が期待されている。

指揮をウィーン国立音楽大学の湯浅勇治氏らに師事。現在、同志社女子大学講師。



ドヴォルザークの残した交響曲

第2次世界大戦が終わりを告げる頃、第7交響曲が第2番として出版されていた事は知られている。しかし新世界交響曲の自筆譜には何故か8番と書かれていた。前作の4曲が未出版であったことは彼の潔癖性が大きく関わっている。事実、観客に受け入れられなかった前作4曲は、彼自身が破棄してしまっている。では何故、新世界交響曲が8番と明記されているのか。なんのことはない。第1交響曲を作曲したこと自体、本人が忘れていたのだから。

さて、第7交響曲のもつ作品の意味はドヴォルザークにとっても重要で、彼の音楽を世界的なものにしたきっかけとなる作品と言っても良い。それまでの彼の作品は、古典主義を守った作品か、ボヘミアの民族色を強く打ち出した作品であった。そしてより多くの人々に愛される作品を目指す為、その2つを上手く融合したのがこの第7交響曲。彼は1884年、恩人ブラームスの第3交響曲の初演を聞くことになる。かねてから親交のあった二人だけに、かなり意識して書かれている。それでも民族色を失うことなく彼独自の手法によって書かれたこの作品はまさに名曲に値する。8番、9番交響曲がより有名なのではあるが、私は音楽の内容や構成力をとっても、この7番交響曲がドヴォルザークを代表する作品だと確信している。 井村 誠貴

永野 貴子 Takako Nagano



マリニスト永野貴子は5歳よりピアノを始め、18歳で単身渡米、ウィスコンシン大学にて本格的に音楽の勉強を開始する。大学1年の秋、打楽器の基礎から学ぶためロバート・ローゼン教授に師事する。マリンバの持つ音色の暖かさ、表現の豊かさに惹かれ、卒業にあたってマリンバを専門決意する。同校での卒業記念は前半にピアノ独奏、後半にマリンバ独奏の意欲的なプログラムを組み、絶賛された。1994年同校卒業、専攻ピアノ・打楽器。1994年8月コロラド大学大学院にマリンバ専攻として入学、ダグ・ウォス・チャンセラーズ・アワードを受賞。同時に奨学金も授与される。1996年6月同大学院修了。在学中よりマリンバ独奏のスタイルにこだわり続け、帰国後はソロのマリンバ奏者としてリサイタル活動を行う傍ら、音楽の幅を広げるためにオーケストラ打楽器、ティンパニー奏者として、また、器楽伴奏のピアニストとしても活動中。2000年10月アジアクラシック音楽オーディション新人賞受賞。同年11月京都・青山記念館にて全曲マリンバ・ソロのプログラムによるリサイタルを開く。

なぜ、クレストンなのか？

選曲の過程で紆余曲折があつて第一候補曲の楽譜を入手できなくなったとき、「仕方ない、クレストンをやろう」と半ば観念した。なぜか？それは学生時代のトラウマにさかのぼる。打楽器を専攻していた学生時代、試験の課題曲リストの中に常に入っていたのはクレストンのこの小協奏曲だった。打楽器の学友が次々とクレストンをさらっていく姿を見て一人取り残されていた。当時の私は打楽器を始めたばかりのいわば新人で、ハイスクールで既に打楽器やマリンバを演奏していた学友のレベルに追いつくことができなかった。それでクレストンを意識的に避けていた。

ポール・クレストン。本名ジョセッペ・グットヴェッジオ。ニューヨーク生まれ。シシリア出身の両親の間に生まれる。幼い頃に母親とともに訪ねた故郷シシリアの音楽や踊りに触発されアメリカに帰るとともに音楽のレッスンを受け始める。作曲はほぼ独学。敬愛する作曲家はドビュッシー、ラベル、そしてスカルラッティ。サイレント映画のオルガニストなどさまざまな職を経て1939年にはグッゲンハイム奨学金を、1941年に交響曲第一番でニューヨーク音楽批評家サークル賞を獲得。この「小協奏曲」は1940年の作品。数あるマリンバ協奏曲の中でもっとも演奏頻度が高い作品である。また、クラシック音楽というジャンルでマリンバを取り上げた第一番目の作品群ともいえる。

今回クレストンを演奏するにあたって私は私の相棒のマリンバに、私をマリンバに導いてくれた恩師ロバート・ローゼンに、いつもいかなる協力も惜しまない私の夫に、練習中音板の上で叱咤激励してくれる猫のイズルデ隊長に、そしてそんな私にマリンバを演奏する機会を与えてくれた京都フィロムジカの皆さんに心より感謝します。

曲目紹介

～シベリウス 音詩タピオラ～

シベリウス最後の管弦楽曲タピオラ。タピオとは森の神の意味でタピオラとはその神のすむところを意味する。スコアには「カレワラ」に基づく詩が書かれてる。

北国の暗い暗い森
神秘の夢、太古の鼓動
森の神はそこにいる
いま霊がもがき始めた

(筆者訳)

この曲は目を閉じて聴いてほしい。天空がしだいに紅いに染まっていく、森をぬける風、その葉音でももののけが目覚ます。襲いかかる靈に魔性は息絶え、そして静かな森に戻る。曲が終わるころ耳をすませばふととなりに森の精が現れるかもしれない。

曲目推薦者：Hrn. 長岡武志 (この文章には誰かの作品が七つ隠されています)

～クレストン マリンバ小協奏曲～

なぜ「小協奏曲」と命名されたのか？

それは演奏時間(全3楽章15分)とオーケストラの編成の規模のためと推測される。モーツァルトなど古典派の協奏曲の形式に従った、速いーゆっくりー速いという3層構造。クレストンの特徴としてみずみずしくて叙情的な旋律とシンコペーションやヘミオラ、変拍子を多用したリズムを自由に組み合わせている点が挙げらる。また、彼は信仰心の深い人であった。第2楽章は後年彼自身の編曲によって「瞑想」というマリンバとオルガンの曲に生まれ変わった。私見だが第2楽章はクレストンの和声哲学が凝縮されているようだ。1940年にこのような作品が誕生したこと自体に畏敬の念を感じる。

クレストンの協奏曲を他のマリンバ奏者が演奏しているのを何度か聞いた。音楽の、駆け抜けていくような速さや腕、手首の動きに圧倒され音を追うよりも目で追ってしまう。そしてなんと美しくゆるやかな第2楽章！だが、私は内心「もっとマリンバが聴きたい」とも思った。速いテンポの第3楽章など速さのために軽くて扱いやすいマレットを奏者が使うためオーケストラ(もしくはピアノ伴奏)の中に音が埋没してしまうのだ。まだ一度もクレストンを弾いていない自分だったが「私ならこうする」というアイディアだけは渦巻いていた：リリズムを減速することなく表現すること、バレリーナの踊りのようなタイトなリズム感をマレットの動きで捉えること、ゆるやかな時間を永遠の祈りのように持続させ、昇華させること、ニューヨーカーが街を歩く速さのような軽さをもって速さの極限に挑むこと、そして、噛み付きそうなくらい猙獰になってみることである。

曲目推薦者：永野貴子

～ドヴォルザーク交響曲第7番ニ短調～

1990年5月、プラハで大変印象的な演奏会が開かれました。覚えていらっしゃる方も多いでしょう。チェコの生んだ名指揮者、ラファエル・クーベリック（1914-1996）が42年ぶりに故国に帰り、タクトを振ったのでした。彼は、第二次大戦直後に成立した旧ソ連の傀儡政権に反発し、活動の場を西側に移していました。それから長い月日を経て後、ベルリンの壁崩壊をきっかけに、チェコでも“ビロード革命”（流血の事態を見なかったためこの名がついた）が起き、共産主義体制は崩壊したのです。クーベリックの「里帰り」演奏会は、冷戦終結を象徴する事件でもあったわけです。彼がプログラムに選んだのはスメタナ作曲「わが祖国」。よく、音楽には国境が無い、と言われますが、この演奏会、そしてこの曲がチェコの人々に与えた感情を想像してみると、その土地固有の歴史と音楽の強い結びつきを感じざるを得ないでしょう。「わが祖国」が作曲された19世紀後半、チェコはオーストリアの支配に抗して、民族自治を勝ち取るための、長い長い戦いの最中にありました。

ドヴォルザークが第七交響曲を作曲したのもこの頃で、全曲を貫くニ短調というシリアスな調性や、暗雲垂れ込めるような冒頭が、私には「戦い」を暗示しているように思えてなりません。彼はスメタナ同様、チェコの人々から特別な尊敬を受けている作曲家ですが、悲劇の都会的知識人だったスメタナとは対照的に、彼の描く「戦い」とは、土の匂いのする農民の「戦い」であるような気がします。だから、凄惨な色彩で塗りつぶされるということは無く、時に健康的で親しみやすい表情のメロディーが、なつかしい田舎の風景を思い出すかのように、顔をのぞかせるのです。特に第二楽章の結末。なだらかな丘陵に沈む美しい夕映えの光景です。チェコの人々は、民族の悲願を実現するまで、幾多の辛酸を嘗めてきました。しかし、第二次大戦で首都は戦火を免れ、「人間の顔をした社会主義」の“プラハの春”、そして“ビロード革命”と、終始穏やかさと忍耐をどこかに残しながらの「戦い」であったように思えるのです。このニ短調交響曲は、そうしたチェコの国民性のエッセンスと言っていいいでしょう。

: Vn. 津田篤太郎

「タピオラ」の謎解き

シベリウスの肉声の録音が残されている^{*}。宮澤賢治風に言えば「やさしいセロのやうな声」で、シベリウスはこう語る。

「いつも私は、誰でもが森の中か、でなければ、大都会に住むべきである、というように思うのです。」

彼の音楽が謎めているのと同様、彼の言葉も実に謎めている。シベリウスは「森」と「大都会」にどのような共通項を見出しているのか？

僕はその答えをこのように考えている。両者の共通項は「人が生命たちと暮らす場所」ではないか？ 「森」で暮らす人は当然のことながら森を形成する多種多様の動植物たちの生命の恩恵があってこそ生きている。そして大都会においては、人は名も知らぬ隣人たちの生命によって生かされている。

『タピオラ』はそうしたシベリウスの思想を端的に表す作品である。そもそも「タピオラ」という題名自体、謎めいた名前だ。タピオラとは、森の神タピオが棲む所[↑]という意味であり^{*}、要するに森のことだ。何故素直に『森（フィン語で“metsa”）』という題にしなかったのか？ 前述の肉声の録音では、シベリウスは森に「メツァ」の語を当ててしゃべっているのだから、敢えて「タピオラ」という題をつけたことに何らかの意味があるのは明らかだ。

その答えこそ、森の生命であろう。シベリウスがこの作品で表現しようとした森は、地勢分類上の森などではない。人が多種多様な生命とともに棲み、それら生命の恩恵を受けて暮らしていく命のゆりかごとしての森なのだ。そして、それら森の生命たちは、「森の神」として人に認識される。

それでは、森の神タピオとはどのような神であろうか？シベリウスの創作の原点である民族叙事詩「カレワラ」^{*}からその姿を描き出してみよう。意外なことに、カレワラにはタピオについての記述が極めて少ない。クッレルヴォオやレミンカイネン^{*}が一連の物語の主人公になっているのに対して、タピオは散発的にその姿を現すだけである。しかしながら、そうした少ない記述を拾っていくと、タピオの姿がおぼろげながら浮かび上がってくる。

タピオは目敏い妻や多数の眷属たちとともに岩に住むいかめしい戦の神でありながら、人々が助けを求めると必ずその願いを叶えてくれる慈悲深い神であり、また、民族楽器カンテレ^{*}の最初の聴衆となるなど音楽に深い造詣を持った神でもある。ただし、カレワラの世界においては、音楽は単に美しく心を和ませるだけの存在ではない。最強の武器にもなる呪いの力を持つ恐ろしい存在でもある。

こうして見ると、タピオは恵みの豊かさと美しさと、そして恐ろしさとを兼ね備えた、まさに森の神にふさわしい性格の持ち主であることがわかる。しかしながら前述のように、このような偉大な神タピオだがカレワラの中であまり登場しない。しかしこのことこそが重要だと思うのだ。カレワラの人々にとって森の神は、敢えて意識しなければならないような特別な存在ではない。空気のように当たり前のように存在するが、しかしたとえ意識しなくてもその恵み

によって人々を生かしてくれる存在。それが森の神なのだ。

ここで冒頭のシベリウスの言葉に戻ってみよう。「誰でもが森の中か、でなければ、大都会に住むべきである。」森で恵みを与えてくれるのが、意識しなくても存在してしてくれる森の神タピオであるならば、大都会でのそのような存在は名も知らぬ大勢の隣人たちであろう。シベリウスが最終的に音楽で表現したかったのは、あらゆる人間が^{おびただ}夥しい生命たちとの^{つな}繋がりによって生きているということだったのかも知れない。

そして、『タピオラ』によってシベリウスはそれを実現した。わずか20分の短い曲でありながら、美しさも恐ろしさも取り混ぜた多様性と、そうした散漫な要素を緊密に結びつけ一つにする緊張がここにはある。まさに生命たちの繋がりである。

『タピオラ』の完成から31年間、91歳で没するまで、シベリウスは新作を発表することはできなかった。『タピオラ』はもう越えることのできない傑作だったのである。

(Tp.遠藤 啓輔)

(注)

※シベリウスの肉声：FINLANDIA レーベルのCD『シベリウスの音楽』(ポニーキャニオン D30L5034) 所収

※「〇〇ラ」はフィン語で「〇〇の住むところ」を意味する接尾辞。例えば地獄の神トゥオニが住むところは「トゥオネラ」になる。また、シベリウスは自らの家を愛妻アイノが住むところという意味で「アイノラ」と呼んだ。

※「カレワラ」：エリアス・リョンロット博士が収集、編纂したフィンランドの民族叙事詩集。岩波文庫から日本語訳(小泉保訳)が出ている。なお、「カレワ」とはフィンランド人の伝説上の祖先とされる巨人のこと。

※クッレルヴォ、レミンカイネン：いずれも「カレワラ」に出てくる悲劇の英雄。シベリウスが彼らを主人公にした作品『クッレルヴォ交響曲』『4つの伝説』を書いている。

※カンテレ：フィンランドの民族楽器。琴に似た撥絃楽器で、深く落ち着いた音色と重厚な和声を出せる。「カレワラ」の中では、英雄ワイナミョイネンが魚の骨と筋から祖形となる楽器を作り、それを後に木で模して作ったのが始まりとされる。

ときめく出会いー湖西の自然
マキノ高原

みくに館(本館)
みくに館山の家(別館)

春から秋はテニス・各種合宿!
冬は目の前がマキノスキー場!
(京都東 I.C. から車で 75 分)

〒 520-1836
滋賀県高島郡マキノ町牧野
TEL&FAX 0740-27-1106 (本館)
TEL&FAX 0740-27-1228 (別館)



京都府知事登録第6号

日本教育旅行

京都市下京区烏丸七条上ル一筋目東入

0120-040566

合宿・ゼミ旅行・スキー・海外旅行 etc
お気軽にご相談ください

第8回定期演奏会のお客さまアンケートにお答えして

本日はフィロムジカの演奏会へ、ようこそおいでくださいました。

我々団員にとって、演奏会終了後の最大の楽しみは、打ち上げのお酒と、ご来場くださった皆様からのアンケートです。演奏会終了後のアンケートの束は、取り合いになるほど人気があります。そしてその束は、打ち上げのお酒の席のネタになるだけでなく、何人かの冷静で客観的なコンサート実行委員の手によってコンピュータに打ち込まれ、集計され、後日反省会であらためて団員に配られて、次の演奏会をより良くするために検討する材料になるのです。

アンケート用紙には、演奏に対する叫び激励だけでなく、会の進行に対するさまざまな点、我々のいたらなかった点について、記していただいています。そのすべてを我々は検討しているのですが、次回演奏会に反映しなかったものは何なのか、反映しなかったものがあるのはなぜなのか、お客さま（特に常連の方々！）にお答えできる場を作りたいと考えました。そうすれば、演奏会に対する意見が我々とお客さまとの間で双方向になり、より密度の高いものになっていくだろうと思われるからです。

紙面の都合もあって、すべてに対する答えは記せませんが、演奏と演奏の間の休み時間にも以下の「アンケート回答に対する回答」に、目を通してください。また、ぜひ今日の演奏会についてもご意見をお聞かせください。われわれはかならずそのアンケートを読んで、そして可能な限り次回以降の演奏会に活かそうと思えます。

注) 総回答数79より抜粋。括弧〔 〕内は引用者記す。

〈演奏について〉

50歳女性 対向配置、いつもと違う方向から音がきこえ、また趣が違ってよかったです。

A: 楽器の配置は、金子先生の「こだわり」です。我々演奏者も、聴こえてくる音の方向で響きが変わるのに驚きました。

12歳女性 2曲目（マーラー、交響曲第5番）は長すぎた。1曲目（別宮、祝典序曲）ぐらいの長さが一番いい。でも、どちらの曲もすごかった。

A: 長い演奏会にお付き合いくださりましてありがとうございます。今回を含め、定期演奏会はほとんど3曲プログラムですので、もう少し気楽に聴いていただけるとかと思えます。

〈演奏曲目について〉

31歳男性 〔略〕2年後ごろには〔第8回演奏会指揮者の〕金子さんと（マーラーの）6番、9番のシンフォニーを取り上げてみたら如何でしょう。

39歳男性 マーラー：大地の歌、ワーグナー：ワルキューレ第1幕。演奏会にて希望。

48歳男性 ウィーン・フィルからアマオケまで沢山のコンサートを聴いていますが（年間50回位）なかなか実力のあるオケと感じました。是非ブルックナーにも挑戦してください。

51歳男性 〔略〕いつか私の好きなブルックナーの3番をやっていたら幸せです。

29歳男性 〔略〕ぜひ金子先生を再度お呼びして、得意中の得意であるブルックナーをお願いします。

A: この5つに限らず、今後希望する演奏曲目として、マーラーやブルックナーを指名して下さった方が多く見られました。マーラーやブルックナーの交響曲は編成も大きく、技術的にも難曲ぞろい、毎回取り上げる訳にはいかないのですが、曲を仕上げた時の充実感は格別です。我々は4回に一回の大演奏会で、そうした曲目を取り上げるようにしています。また、前回指揮者の金子先生の指揮も大変好評でした。

我々の、前回のマーラーの演奏について、金子先生からは「ほろ苦さもあっての、飲み終わってのこの美味さは、まさに一杯のビールのような……」といった評をいただいたのですが、後日、「演奏に関しても今後もどんどん相談してくれていい」とお手紙をいただき、フィロムジカとしては大変心強い限りです。

なお、第12回演奏会にはブルックナーの第9番の交響曲を予定しています。

60歳男性 2001年12月は、記念すべき定演の10回目となります。そこで、指揮者として金聖響、または牧村邦彦を希望。曲目、チャイコフスキーの第5番をよろしく。

A: これまで、幸運なことに大変すばらしい指揮の先生との出会いが続いてきました。

チャイコフスキーの交響曲は、フィロムジカの通曲会議で議論される事が少ないです。「演奏頻度の少ない名曲を広く一般に紹介する」ことをモットーにしているため、名曲でも取り上げられない事が少ないものがあり、その一つがチャイコフスキーの曲です。もっとも、団員の好みにもよるようですが……。

〈演奏会の進行その他について〉

36歳男性 入場者数にかかわらず、バックの座席（Pブロック）を含めて、全席開放していただいた事に、貴団の良識を感じ、感心しました。（聴衆の音の好みは様々であり、本来、当たり前なのですが、それができていない団体があまりにも多い）

A: 自由席制にしている以上は、全席開放が基本かもしれません。今後も会場側と相談して、できる限りお客さまの希望の席に座っていただけるよう努力していきます。

?歳女性 若い方が多いのに驚きました。とても良かったです。

A: 若さは希望ですね。しかし、我々も全員が一年に一つずつ年をとるようです（＾＾；！

その他、特に演奏についての沢山のご批評いただきました。ありがとうございました。

京都フィロムジカ管弦楽団

Kyoto Philomusica Orchestra

Concertmasters

天澤 天二郎
田村 うらら

Violins

天澤 天二郎
飯田 俊也
石田 隆
井上 あゆみ
井上 理恵
上田 松子
越後 美和
大月 遥
大八木 文人
荻野 衣美子
小幡 拓也
川島 武士
田村 うらら
千熊 由紀子
津田 和子
津田 篤太郎
中島 円
西村 浩輔
藤本 亜美
宮下 康子
吉野 仁子
吉村 良和

Violas

河上 由香里
瀬尾 倫代
竹歳 環
長谷山 智仁
平石 美緒
松浦 淳司

Cellos

海野 香織
小川 優香
小野田 税
菊地 涼
小松 正明
多田 進

Double basses

今城 和久
名坂 美香

Flutes

江藤 佳美
(Piccolo)
逸見 正憲
松村 朋美
(Piccolo)

Oboes

鈴木 さや子
鈴木 俊哉
中西 充弥
(English horn)

Clarinets

田中 慎一郎
野田 瑠美

Horns

芦原 俊平
木下 洋輔
桑野 亜紀子
坂口 裕志
長岡 武志
名取 良
安田 聖
吉野 文彦

Trumpets

遠藤 啓輔
渡辺 美智子

Trombones

宮下 秀行

Marimba and Kettledrums

永野 貴子

顧問

和田 之宏

団長

長岡 武志

弦トレーナー

吉野 美穂 京都市立芸大卒。ヴァイオリンを木村直子、岸辺百百雄、室内楽を種田直之、河野文昭、久合田緑の各氏に師事。

管トレーナー

山崎 雅夫 京都大学卒。京都大学交響楽団金管・打楽器トレーナー。トランペットをC. マクベス、A. ハーゼス、M. アンドレの各氏に師事。

京都フィロムジカ管弦楽団 第10回定期演奏会

2002年1月13日(日) 京都府長岡京記念文化会館

メンデルソーン/「ルイ・プラス」序曲 モーツァルト/交響曲第35番「ハフナー」 フォーム/交響曲第3番

指揮：池田 俊

賛助会員募集中

〈特典〉年2回の定期演奏会にご招待。会報にて演奏会などのご案内をします
〈年会費〉個人会員：4,000円/1人 Jr.会員(高校生)：2,000円/1人
木下/ Tel:090-2012-3068 E-mail:kinosita@cew.melco.co.jp

新入団員募集中

〈募集パート〉 ヴァイオリン, ヴィオラ, チェロ, コントラバス, クラリネット, ファゴット
トランペット, トロンボーン(管楽器未経験可) <スタッフ同時募集>
〈活動〉 毎週日曜日 午後1時~5時 河原町丸太町周辺(ここに事務局があります)
入団費 5,000円 団費 3,000円/月
社会人と学生と一緒に頑張っているオーケストラです
河上/ Tel:075-744-2158 E-mail:philo_recruit@artdam.uji.kyoto.jp

フィロムジカホームページ <http://www.artdam.uji.kyoto.jp/philo/>

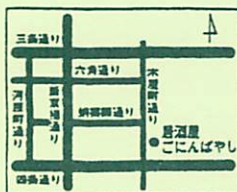
居酒屋 ごはくばやし



PMS:00~深夜12:00
(土・祝日前~AM2:00)

4~100名 宴会受
中・木屋町四条上ル

☎(075)221-3517



Thankyou Print Thankyou Print Thankyou Print

- 印刷物のことならお気軽にご相談下さい
- 見積のみでもOKです
- 親切・丁寧・安心

印刷

三究プリント

〒621-0815 亀岡市古世町3丁目9-6
TEL(0771)23-7339
FAX(0771)24-7945

Thankyou Print Thankyou Print Thankyou Print

クラシック音楽の海外公演・国際交流

海外での公演・国際交流は、現地でのマネジメントが大切です。
弊社は日本のオーケストラの海外公演・国際交流を、真の意味で成功させて参りました。
海外公演・国際交流のお手伝いはおまかせください。

最近の海外公演実績・予定

岡山県桃太郎少年合唱団ドイツ公演98年8月(レーゲンスブルク大聖堂他)
同志社大学交響楽団ヨーロッパ公演98年3月(ミュンヘン・ヘラクレスザール他)
京都市民管弦楽団ヨーロッパ公演99年5月(ウィーン・ムジークフェライン大ホール他)
ひこねベルリン第九実行委員会99年12月31日(ベルリン・SFB放送大ホール)
ルーマニア トゥルグ・ムレシュ パッサバ没後250年記念音楽祭 2000年5月(文化宮殿)
同志社大学交響楽団ヨーロッパ公演2001年3月(グラーツ・ステファニーザール 他)

ホームページ：<http://www.mitsuma.com/agent/oversea>

協力会社：ルフトハンザドイツ航空会社、全日空、JTB、近畿日本ツーリスト、AIU保険会社

(社)日本クラシック音楽事業協会会員
(株)ミツマ・ミュージックプロダクツ

〒605-0009 京都市東山区三条通大橋東入ル大橋町102 田中ビル5F Tel.075-761-1213 Fax.075-752-5568

